



Horizon vRealize Orchestrator プラグイン 1.3 リリース ノート

2016 年 5 月 31 日リリース | ビルド 3902983

最終更新日：2016 年 5 月 31 日

本リリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- [主な特長](#)
- [本リリースの新機能](#)
- [ご使用前の注意事項](#)
- [利用可能な言語](#)
- [互換性に関する注意](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

Horizon vRealize Orchestrator プラグインの主な特長

Horizon vRealize Orchestrator プラグインは、vRealize Orchestrator と VMware Horizon 7 間の相互作用を可能にします。プラグインには標準ワークフローのセットが含まれています。このワークフローにより、これまで View Administrator や View インターフェイスで推敲していた基本的な目的を実行できます。

このプラグインを使用して、リモートのデスクトップおよびアプリケーションをプロビジョニングするための設定および方法を拡張できます。

- **セルフサービス** - エンド ユーザーによるアクセス性を高めるため、Horizon vRealize Orchestrator プラグインを vRealize Automation に組み込むことにより、アプリケーションおよびデスクトップにセルフサービスでアクセスできるようになります。このプラグインのワークフローは、vRealize Automation サービス カタログに組み込まれている要求および承認プロセスに統合できます。
- **自動化** - タスクを自動化および分散して管理を委任することにより、電子メールのやりとりと例外処理の必要性が軽減されます。要求は事前定義のプロセスにルーティングされ、申請理由が必要な場合のみ承認を求めるフラグが付けられます。

本リリースの新機能

このリリースの Horizon vRealize Orchestrator プラグインには以下の新機能が含まれています。

- **インスタント クローン** - インスタント クローンを通じて作成されたフローティング ユーザー割り当てを使用する、自動化されたデスクトップ プール タイプがサポートされます。
注：「イメージをプッシュ」および「リカバリ」機能専用のワークフローはありません。ただし、既存のワークフローはインスタント クローン プールでサポートされます。
- vRealize Automation 6.2.4 をサポート。
- vRealize Orchestrator 6.0.4 をサポート。
- VMware Horizon 7.0 および 6.2.2 をサポート。
- VMware vSphere 6.0 Update 2、Update 1、および 6.0 をサポート。

ご使用前の注意事項

Horizon vRealize Orchestrator プラグインのインストールは、その他の vRealize Orchestrator プラグインのインストールと同様です。Horizon vRealize Orchestrator プラグインを構成するには、さまざまな構成ワークフローを実行して各種 VMware Horizon 7 コンポーネントに接続し、ロールと権限を構成します。手順については、『[VMware Horizon vRealize Orchestrator プラグインの使用](#)』を参照してください。

利用可能な言語

Horizon vRealize Orchestrator プラグインのユーザー インターフェイスと製品ドキュメントは、日本語、フランス語、ドイツ語、簡体中国語、繁体中国語、韓国語で入手できます。

互換性に関する注意

このプラグインのバージョン 1.3 には、次の VMware 製品が必要です。

- VMware Horizon 7.0 または 6.2.2
- vRealize Orchestrator 6.0.4
- vRealize Automation 6.2.4
- vSphere 6.0 Update 2、Update 1、および 6.0

注：Horizon vRealize Orchestrator 1.3 プラグインは、Horizon Air をサポートしていません。

機能面での前提条件の詳細については、『[VMware Horizon vRealize Orchestrator プラグインの使用](#)』を参照してください。

解決した問題

このリリースで、次の問題が解決されました。

- vSphere Web Client のドイツ語またはフランス語バージョンを使用してワークフローを実行する場合に、ワークフローにドロップダウン リストまたはチェック ボックスが含まれていると、ワークフロー UI が再ロードされ、一部の文字が文字化けし、HTML コードとして表示されます。

既知の問題

- vRealize Automation に組み込まれている vRealize Orchestrator から Horizon 構成での [View ポッドの追加] ワークフローを実行する場合、ワークフローは失敗する代わりに成功します。ただし、ハンドシェイクの失敗エラーはログにキャプチャされます。

回避策：TLSv1.1 と TLSv1.2 を手動で有効にする必要があります。『[Enabling TLSv1.1 and TLSv1.2](#)』を参照してください。

- [委任された管理者の追加の構成] ワークフローを実行中に、委任管理者のユーザー名を追加し、そのユーザー名に特殊文字が含まれている場合、ワークフローでは成功したと報告されますが委任管理者構成は該当ユーザーに追加されません。
- [マシンのプールへの登録] ワークフローでは、いずれの検証も実行されずに提供されたすべての DNS 名が登録されます。管理者は、返されたレジストリ トークンを登録されたマシンに手動でプッシュする必要があります。
- [ゲスト認証情報を追加] ワークフローおよび [委任管理者構成での登録の管理] ワークフローを実行した後、vRealize Automation 6.2.4 サービス カタログにゲスト認証情報が登録されるまで少し時間がかかります。認証情報を表示するには、vRealize Automation からログアウトして、再度ログインし直す必要がある

こともあります。

- **「アプリケーションに対する資格」** ワークフローで、誤ってアプリケーション プール ID ではなくデスクトップ プール ID を指定しても、ワークフローが実行され、エラー メッセージも表示されません。この問題は、プール ID を手動で指定した場合、またはワークフローをデスクトップ プール ID にバインドした場合に発生します。